



泉丘SSHだより



第2号 H19.6.6
編集: SSH推進室
発行責任者: 鈴木庸雄

石川県立金沢泉丘高等学校



科学技術コンテストに参加しよう！！



科学技術コンテストは、学力を競うだけでなく、科学の面白さ、考える楽しさに触れることができると同時に、全国から集まってくる理科・数学が大好きな高校生たちと出会い、競い合うことができる良い機会でもあります。先輩たちの中には、コンテストで全国No.1になった人、国際大会への参加者を選抜するための選考合宿へ参加した人、そして国際大会へ参加した人もいます。皆さんも、積極的にコンテストへ参加し、国際大会目指して頑張りませんか？



平成19年度 コンテストスケジュール

大会名称・ホームページ URL	募集期間	試験日程等
物理チャレンジ2007 http://www.phys-challenge.jp/	4月1日～ 4月20日	<第1チャレンジ> 5月31日 実験課題レポート提出締め切り 6月10日 理論問題コンテスト(全国一斉)実施 ※第2チャレンジ進出者 100名選抜 <第2チャレンジ> 7月29日～8月1日 3泊4日 会場: 筑波大学及び筑波研究学園都市ほか ※国際物理オリンピック代表5名選抜
全国高校化学グランプリ2007 http://gp.csj.jp/index.html 現在参加受付中 希望者は 担当の化学の先生まで	4月23日 ～ 6月22日	<一次選考> 7月16日 筆記試験 (150分) 会場: 金沢大学理学部 ※二次選考進出者 60名選抜 <二次選考> 8月18・19日 実験試験(合宿形式) 会場: 東京工業大学大岡山キャンパス ※合宿参加者 8名選抜 <代表選考合宿> 3月～4月 合宿研修 ※国際化学オリンピック代表4名選抜
国際生物学オリンピック 国内大会 http://www.jbo-info.jp/ 受験希望者はSSH推進室まで。	6月～9月	<第1次試験> 12月頃 筆記試験(理論問題) (約50問を90分) ※二次選考進出者 10名選抜 <第2次試験> 3月中旬 実験試験 3日間 ※国際生物学オリンピック代表4名選抜
日本数学オリンピック http://www.imojp.org/ 9月に詳しい案内を配布します。	5月～10月	<予選> 1月14日 筆記試験 (12問を3時間) ※Aランク者約100名が本選進出 <本選> 2月中旬 筆記試験 (5問を4時間) ※全国上位20名前後を代表選手候補 <代表選考合宿> 3月下旬 合宿研修 ※国際数学オリンピック代表6名選抜

コンテストの詳細についてはJSTホームページ <http://www.jst.go.jp/rikai/contest/new/>や各コンテストのホームページを参照するか、SSH推進室へ聞きにきてください。

中国研修報告

中国で開催された「北京市青少年科学技術創新コンテスト」に、本校の生徒2名が日本代表として参加しました。このコンテストは数十カ国の同年代の生徒が集まり、口頭発表やポスター発表などを行い、発表内容、独創性などを競います。本校の代表生徒2名は、韓国サイエンスフェスティバルで発表した「パタパタ」と化学の炎色反応実験「黒い炎」を発表し、見事、第1位を獲得しました。



コンテストでは、私たちは二つの実験を用意して臨みました。私は、「パタパタ」と名づけた、16枚の直角二等辺三角形をセロテープで貼り合わせたパズルを自分で作ってもらい、実際にチャレンジしてもらうというを行いました。この出し物は、金沢泉丘高校理数科が、昨年の夏に韓国のサイエンスフェスティバルに出展したものです。このパズルは、紙を貼り合わせて環を作り、その裏と表をひっくり返すというものです。そのために裏と表を区別する必要があるため、来場者にはマジックでパズルに絵を描いてもらうことにしていました。しかし、韓国でやった時とは全く違って、中国の人は簡単な絵しか書かないのでペースが速く、日本語がめづらしく、私たちの名前をパズルに書いてくれと頼まれ、サイン会のようになり、たくさんのサインをせがまれました。非常に大変ではありましたが、文化の違いを感じ、非常に面白く思いました。



この旅で、たくさんの国のヒトに出会いました。アメリカ・ニュージーランド・オーストラリア・デンマーク・マレーシア・ウクライナ・韓国・中国そして日本人の稲垣さん、坪井さん、加藤さん。基本は英語でのやり取りでした。しかし、その国のあいさつをすることで、相手はすごく嬉しそうにしてくれました。私自身も、日本語であいさつしてくれるととても嬉しいと感じました。今まで、「こんにちは」「ありがとう」という二つの言葉を私は当たり前に使っていて、当たり前すぎてなんのありがたみも感じませんでした。たくさんの国の人があいさつひとつで笑顔になる。「こんにちは」と「ありがとう」という挨拶は本当に大切なものだということがありました。特にマレーシアの3人の学生とは、英語と日本語のあいさつをして、そこから話が広がりました。彼らは、英語と中国語を話せ、そしてさらに、日本語もたくさん知っていて圧倒されました。マレーシアの子たちは、本当にいろいろなことに興味を持っていて、そして必ず実践をしていました。彼らを見て学んだことは、実践してはじめて世界が広がるということでした。英語をなぜ勉強するのか、そもそもなぜ勉強しなくてはならないのか。そんな疑問を何度も抱いたことがありました。しかし、マレーシアの彼らと出会って、そうやって勉強、勉強と思ってやるものは本当の勉強ではないと思いました。これからは、興味を持ったことから学習し、実践をして自分のものにしていこうと思いました。



今回、たくさんの国の方たちとコミュニケーションをとることができ、たくさんの文化を知ることができました。それぞれの国の人たちは、いろんな個性を持っていて、みんなちがってみんなよかったと思います。さらに異文化理解を深めることで、また新たなことが見えてくると思います。北京では、空気はスモークでかすんでいて、太陽がかすんで見えませんでした。また、夕日は球に見えなくて、まるで、地球を空が覆っていて、太陽の部分から他の世界へつながっているような不思議な光景に見えました。ところが、雨がふって、風が吹くと、スモークは消え、新たな風景が広がりました。初めて見て、感じるものがたくさんあり、次々と起こるいろいろな現象に驚きの連続でした。また、中国の店は、どこに行っても店員が多く、小さい店であっても、店員さんは必ず二人以上いて、いたるところに警備員さんがいました。風揚げやバドミントンで夢中に遊んでいる人も印象的でした。日本での感覚と中国での感覚が全然違って本当に面白かったと思います。

これだけ楽しく充実した日々を送ることができたのは、たくさんの方の協力があったからだと思います。あるひとつのところに行くとしても、通訳の方をはじめ、いろいろな方のお世話になりました。本当にありがとうございました。

今回の北京市科学技術創新大会への参加で海外での科学技術コンテストの参加は二回目となります。期間も長く、いろいろな国の代表団と深く交流することができました。日本からは小さい子どもでも楽しめるパズル「パタパタ」と高校生や一般の先生向けの「黒い炎」の2つの実験でした。幅広い年齢層の学生に人気があったため、日本のブースが一番人気だったように思います。

海外での科学技術コンテストへの参加では「英語」の重要性を痛感します。主に「パタパタ」を中心に説明していましたが、昨年韓国でも同様の発表をしていたため、英語での説明は楽に感じました。他の国の代表団の実験は高校から大学レベルの実験が多く、非常に難しかったです。学校でならう英語だけではなく、理系の英単語をもっと勉強しなければならないと思いました。

他国の代表団も理系の学生が集まっていたのでとても話やすく、いろいろな国の学校生活や考え方を学ぶことができました。いままでの一年間の高校生活で、同世代の学生と英語で交流する機会が多かったため、今回もスムーズに交流することができました。食事の時間ではいろいろな国からの代表生徒が自然と一つのテーブルにあつまり、お互いの国のことや将来のことについて意見をかわしました。とてもいろいろな言語がひとつのテーブルの上を飛び交う様子は普段の感覚からすると少し奇妙にも感じましたが、非常に充実した時間でした。



“Young Scientist” 開会式や、交流会のときなど、この言葉を非常に多く耳にしました。私は将来、理系の道へ進み、国際的な場で活躍したいと考えています。近い将来、それぞれが今度は“Scientist”として同じようにテーブルを囲む事ができれば良いと感じます。

このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。